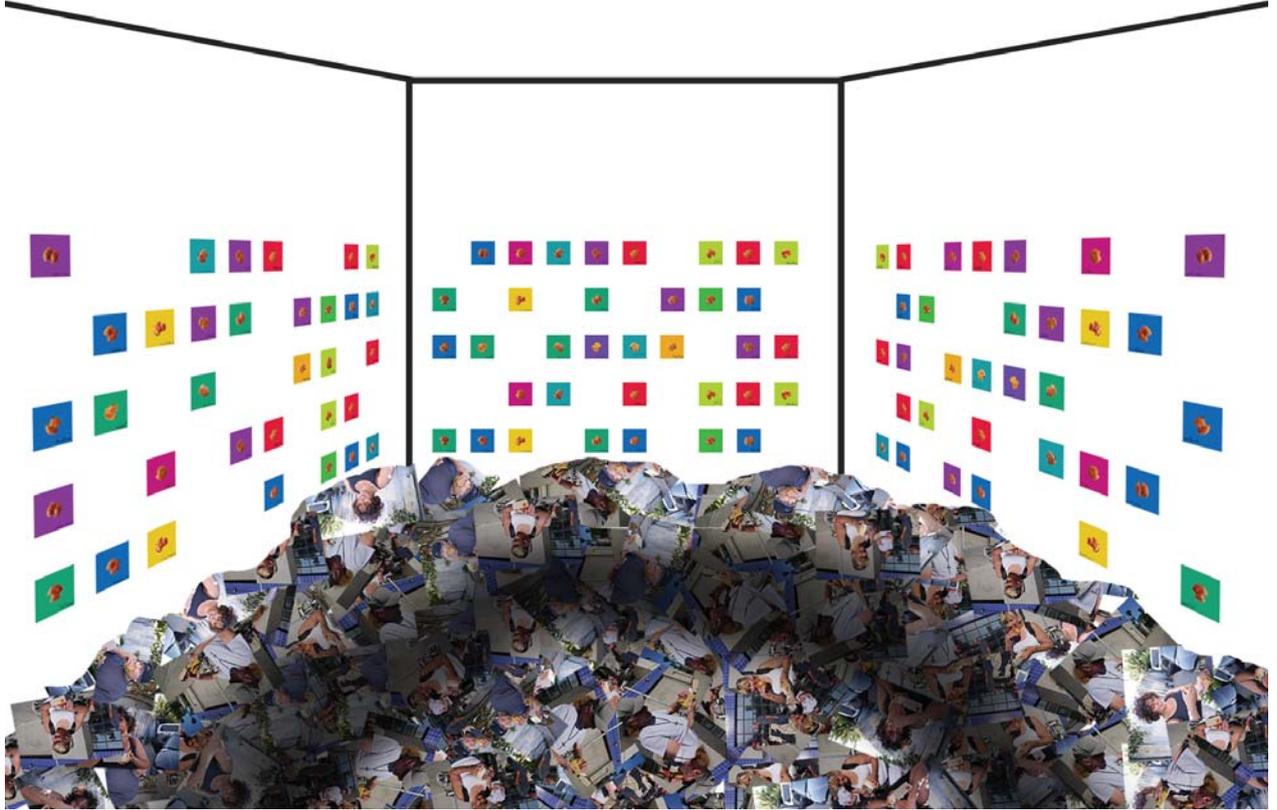


◆制作意図（360文字以内）

本作は一般社会とホームレスとの間にあ
る壁を乗り越える試みである。私はロサ
ンゼルスに移り住んで以来、ホームレス
の姿を見ない日はない。信号待ちの車に
HELPというボードを持った彼らが一
台一台物乞いして歩く姿は誇張なくアメ
リカの日常風景である。しかしアメリカ
で起きたことは十年後に日本で起きると
言われる。実際、貧困・格差は日本をは
じめ世界中で広がっており、危機感が高
まっている。そこで重要なのは、この社
会＝我々が彼らを生み出している事を認
識し、コミュニケーションする事ではないか
。その為に私は街角のホームレスと一つ
のハンバーガーを彼らと作家とで一口ず
つ食べる事を実践する。それは彼らと状
況を共有する事であると同時に、理解と
受容とを示す事である。その交流の記録
としてハンバーガーを描く事で、我々と
彼らとの間にある壁の正体を問いたい。

◆作品概要説明

作品の写真またはスケッチ等



作品の形状・サイズ・素材・重量(kg)等／所要空間／所要時間(映像・音楽等の作品の場合)／所要電力量(W)など



← 壁面に30×30cmの絵画作品100点を展示。縦5段×横30列の合計150点分となるレイアウトに、50の空白を用意して100点を展示。それにより今後もホームレスが増える余地が存在することを暗示する。

↓床面にはホームレスら100人を撮影した写真プリント(L判)を約1万枚、壁面に向かってせり上がるように敷き詰める。その写真の下には毛布を敷くことにより、人間を踏みつけたような感覚を与える。そうすることで、一般社会がいかにホームレスを遠ざけ、足蹴にしているかを体現する。また、その写真によって、ハンバーガーの絵画が何を意味するかを気付かせる。



※このページに収まらない場合は、A4サイズ用の紙2枚まで追加可

◆作家略歴 / その他

1982年 広島県生まれ
2005年 九州産業大学芸術学部美術学科卒業
2013年 新宿調理師専門学校調理師本科卒業
現在ロサンゼルス在住
個展
2018年 「COLOUR ME WELL」 One East Asia Gallery、シンガポール
2016年 「コンビニ弁当の山-Time is money.」 トーキョーワンダーサイト渋谷、東京
2016年 「BENTO」 ザ・パレスサイドホテル、京都
2016年 「コンビニ弁当の山」 静岡市クリエイター支援センター (CCC)、静岡
2015年 「カップヌードルの滝」 HAGISO、東京
2014年 「年弁の滝」 沢田マンションギャラリーroom38、高知
グループ展
2019年 「11th Annual 50 50 Show」 Sanchez Art Center、サンフランシスコ
2019年 「Let Me Eat Cake, Too」 Blue Roof Studio、ロサンゼルス
2018年 「Art Gemini Prize 2018 Finalists' Exhibition」 Menier Gallery、ロンドン
2018年 「SINGAPORE INTERNATIONAL ARTIST FAIR」 Suntec City、シンガポール
2017年 「UMU-Q -九州産業大学芸術学部優秀作品展」 上野の森美術館、東京
2016年 「Independent TAGBOAT ART FES」 ヒューリックホール、東京
2016年 「a3 project / season 2016」 MATSUO MEGUMI +VOICE GALLERY pfs/w、京都
2016年 「EN / Sawaman Gallery Room 38 exhibition」 Verkligheten、スウェーデン
2015年 「退廃藝術展2015」 DESK/okumura、東京
2015年 「美術食堂」 ART SPACE ZERO-ONE、大阪
受賞・入選
2018年 Art Gemini Prize 2018(ロンドン) ショートリスト選出
2015年 TWS-Emerging 2016 入選
2015年 CCC展覧会企画公募 New Creators Competition 2016 入選
2015年 トーキョーワンダーウォール公募2015 入選
2015年 ワンダーシード2015 入選
2005年 別府アジアビエンナーレ2005 入選
アートフェア
2018年 ART FAIR ASIA FUKUOKA 2018(福岡)
2018年 Art Jakarta 2018(インドネシア)
2018年 Art Gyeongju 2018(韓国)
2018年 ART FORMOSA 2018(台湾)
2018年 Busan Annual Market of Art 2018(韓国)

別紙 1 / 2

本作は、以下コンセプトで制作を続けている「ONE BITE CHALLENGE」シリーズをベースとしたインスタレーションである。

ONE BITE CHALLENGEシリーズのコンセプト

全米のホームレス数は55万4000人(米住宅都市開発省2017年1月発表)で、うち路上生活者は19万3000人と2年前から9%増加した。私はアメリカに移り住み、その現実を思い知った。信号待ちの車に、「HELP」というボードを持ったホームレスが一台一台物乞いして歩く姿は、誇張なくアメリカの日常風景である。そして犬猫のようにあしらわれる彼らの姿は世界の縮図にも見える。

かつてアンディ・ウォーホルは言った。「アメリカの何がすばらしいって言えば、一番の金持と一番の貧乏人が同じものを消費するという伝統を始めたってことだ。テレビを見てごらん。たとえばコカ・コーラだ。あなたはテレビで大統領がコーラを飲むのを知る。リズ・テイラーがコーラを飲むのを知る。そして考えてごらん。あなたもコーラを飲むのだ。コーラはコーラであり、街角の浮浪者が飲んでるのより、あなたのコーラが高くつくなんてことはない。コーラは全部同じでどれもおいしい。リズ・テイラーもそれを知っているし、大統領も、浮浪者も、あなたも知っている。」——むろん1960年代という時流に乗った彼一流の皮肉だとしても、いま現代あらためてこの言葉を考えれば人間性の喪失と断じなければならない。なぜなら物質的には同じでも、高速道路の下に張られたテントと、ビバリーヒルズに建つ豪邸で味わうそれとは、まったく違うものになるからだ。それが人間というものだろう。本シリーズは、一般社会から切り離された存在として生きざるを得ないホームレスの人々との壁を乗り越える試みである。ロサンゼルス街角に佇むホームレスと、ひとつのハンバーガーを彼らと作家自身とで一口ずつ食べる。それは彼らと状況を共有することであるとともに、理解と受容とを示すことであり、綺麗事が許されるならば心を通わせることになるかもしれない。そのコミュニケーションの記録としてハンバーガーを描くことで、我々と彼らとの間にある壁の正体がいったい何であるのかを問いたい。



ONE BITE CHALLENGE(ハディ/53歳/男性/2019年5月18日)2019年 キャンパス、アクリル 30×30cm

本プランの制作手順

本プランはホームレスの協力が必要になるため、右の説明図を用いて協力をお願いした。

以下、日本語訳。

概要説明

私の作品制作に協力してくれませんか？

その謝礼に10ドルお渡しします。5分ほどで済む簡単なお願いです。

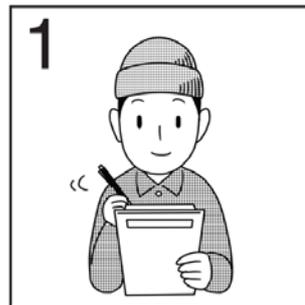
1. アンケートに記入してください。
2. ハンバーガーを一口かじってください。(その際に写真を撮ります)
3. そのハンバーガーを私も一口かじります。(その後、ハンバーガーは私が持ち帰ります)
4. 私と肩を組んで写真を撮ってください。

ドキュメント性を高めるため、デジタルカメラ撮影に加えてインスタントカメラでの撮影も行い、各人のアンケート(別紙2参照)に貼付。



Explanation

Would you collaborate in producing my art work?
I will pay \$10 as a reward for your collaboration.
It's an easy thing and will take 5 minutes.



Please fill this questionnaire.



Please take a bite of this hamburger (and please let me take a picture as you're doing it).



I will take a bite after you do.
*I will take the hamburger with me.



Please let me take a picture of us with our arms around the other's shoulders.

別紙2/2

各人には、右の個人情報の使用許諾の同意についての署名を含むアンケートの記入をお願いした。

▼個人情報使用許諾同意文

Information entered in this form, and photographs that are taken, may be published on websites, shown at exhibitions, etc. Please sign with acknowledgment of this.
(本票に記入頂いた情報及び当方で撮影した写真は、HP・展覧会等で発表・公開される事があります。予め了承の上、ご署名下さい。)

ここで選択された色は各絵画の背景色に、また、各人の署名を絵画のサインとして使用することで、存在自体を否定されがちな彼らの存在を公の場で回復する、または彼らが発言権をもった確固とした市民であることを表す。

Questionnaire

No. 1
Date May 18 / 2019

1) Name Hady Luckett
Hady Luckett

2) Age 53

3) Gender M

4) What is your favorite color? Please circle the color in the following figure:



*Information entered in this form, and photographs that are taken, may be published on websites, shown at exhibitions, etc. Please sign with acknowledgment of this.

Signature Hady Luckett

Your cooperation would be highly appreciated.

Copyright © 2019 Tomomi Shintaku. All Rights Reserved.

Questionnaire

No. 52
Date June 17 / 2019

1) Name LADD & KEMITZ

2) Age 50

3) Gender (M)

4) What is your favorite color? Please circle the color in the following figure:



*Information entered in this form, and photographs that are taken, may be published on websites, shown at exhibitions, etc. Please sign with acknowledgment of this.

Signature Ladd & Kemitz

Your cooperation would be highly appreciated.

Copyright © 2019 Tomomi Shintaku. All Rights Reserved.

本プランの参考画像

※制作中の絵画の完成イメージです。



※2019年7月27日時点で、100人超のホームレスにご協力いただきアンケートの回収及び撮影を完了。

